

シンポジウム

九州脊梁山地文化圏



平成22年10月24日(日)～25日(月)

◆10月24日(日) プレイベント「錦秋の脊梁山地体験」

08:25 1コース 通潤橋道の駅発 脊梁山地ぐるっとゆっ旅 200km (バスで一周)
11:00 2コース やまめの里発 県境トレッキング(向坂山→小川岳の分水嶺を歩く)
19:30-21:00 前夜祭 夜神楽 鞍岡祇園神楽 会場:やまめの里



緑資源幹線林道 21.10.21

◆10月25日(月) シンポジウム「九州脊梁山地文化圏」

9:00-9:30 受付 会場:五ヶ瀬ハイランドスキー場 スキーセンター

9:30-9:55 開会行事と出し物(鞍岡の臼太鼓踊から山伏問答)

10:00-11:00 基調講演 ①九州脊梁山地の地質 講師:白池図先生(宮崎地質研究会)

九州脊梁山地の奥深く、尾根を歩き、沢を登り、ひたすら林道を歩き、崖をよじ上る。露頭の風化した岩をたたいては石の起源を調べ地図上に落とす。気の遠くなるような作業のそのひとつひとつが脊梁山地の地質図となって姿を現した。このたび初めて脊梁山地を踏査し地質詳細図を完成したその記録を大公開。脊梁山地はどこからきたのか、川のりや岩茸が特定地域に生えるわけ、化石、鉱物、植物は・・・崩壊の危険地帯までを過去の地質のできごとが教えます。

11:02-11:08 出し物(鞍岡のタイシャ流棒術)

11:10-12:10 基調講演 ②九州脊梁山地の民俗文化 講師:永松敦先生(宮崎公立大学教授)

尾根を伝う峠道はかつては文明の十字路。その脊梁山地の狩猟、焼畑、神楽や民俗信仰など多くの儀礼作法は日本の基層文化を留めている。祭文から解き明かす山地人の哲学は、100年前、柳田国男が「山人、山民をして平地人を戦慄せしめよ」と書いたそのままに今もその面影を残す。椎葉民俗芸能博物館を立ち上げ、脊梁山地の民俗文化を探求してやまない氏が、山人の生活文化を新たな視点でえぐり出し、消滅しつつある山村集落に光を当てます。

13:00-13:30 話題提起講演

—広域観光圏整備事業の現状と展望—
講師:九州運輸局観光地域振興課長

13:40-16:00 ■パネルディスカッション

九州脊梁山地の明日を探る

—新幹線開通・九州中央自動車道山都IC開通に向けて—
パネリスト

甲斐利幸氏(山都町長)
成尾政紀氏(水上村長)
縦木晴美氏(五木村議会議員)
炭尚之氏(五家荘地域振興会事務局長)
本田忠氏(熊本県森林インストラクター会長)
杉田英治氏(五ヶ瀬自然学校)
黒木勝実氏(元椎葉村助役)

アドバイザー 白池図氏、永松敦氏、
九州運輸局観光地域振興課長

コーディネーター 秋本治

◎九州脊梁山地文化圏のキーワード

ぐるっとゆっ旅ロード

ゆっ旅の駅

ガイド特区

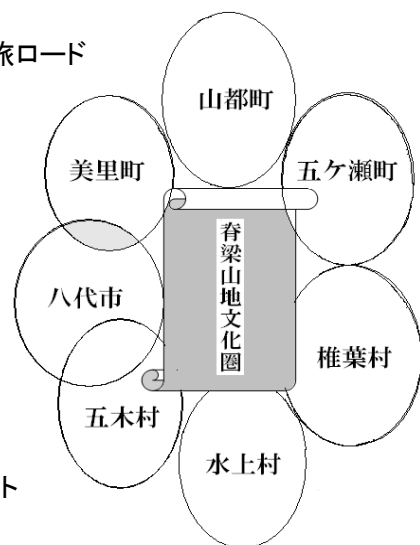
広域連携

峠道

民俗文化

パワースポット

日本最大の太平洋型ブナ帯



主催 :九州ハイランド観光ガイド・インストラクター協会。

共催 :霧立越の歴史と自然を考える会、熊本県森林インストラクター会、大国見会(椎葉村)。

後援 :九州森林管理局、熊本県、宮崎県、熊本県山都町、熊本県美里町、熊本県八代市、熊本県五木村、熊本県水上村、宮崎県五ヶ瀬町、宮崎県椎葉村、九州ハイランド活性化協議会、他。